２　探究的な学習の充実

これからの社会を生きる児童生徒が，生涯にわたって学び続け，答えのない問いに立ち向かっていくためには，目の前の事象から解決すべき課題を見いだし，主体的に考え，多様な立場の者が協働的に議論し，納得解を生み出すなど，探究的に学ぶ力を育成することが不可欠である。

さらに，一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むためには，「社会に開かれた教育課程」の視点から，各学校において，地域や産業界との連携によるキャリア教育の充実を図り，児童生徒に学校で学ぶことと社会との接続を意識させることが重要である。

そこで，県教育委員会では，探究的な学習の充実を目指し，ＰＢＬ（プロジェクト型学習）の考え方を用いた授業改善や「社会に開かれた教育課程」の視点を踏まえたキャリア教育，ライフプランニング教育の充実，さらにはルーブリックを活用した学習評価の研究を進めていく。

（１）ＰＢＬ（プロジェクト型学習）の考え方による授業改善

「課題発見・解決学習」をはじめとした主体的な学びの質をより高め，児童生徒一人一人が思考し続けることのできる授業改善の一例としてＰＢＬ（プロジェクト型学習）の考え方がある。ＰＢＬ（プロジェクト型学習）とは，「授業での子供たちの学びをプロジェクトとして組織し，その達成へと促す手法」であり，実生活・実社会の「答えがない問い」を扱い，その解決に向けて探究し，解決策を社会に提案・発信することで，児童生徒の主体的な学びを引き出そうとするものである。

【ＰＢＬ（プロジェクト型学習）の特徴】

○　「答えがなかったり，ひとつの解が存在しなかったり，発展性のあるプロジェクト」を扱う学習。
○　プロジェクトの遂行を通して，他の学習にも応用できる汎用的能力の育成を目指す学習。
○　「社会に開かれた教育課程」の視点で，教科等を横断しながら，実生活・実社会の課題を解決し，社会へ還元する学習。
○　「将来こうなるためにはどうしたらいいのだろう？」と考え，現実と未来のギャップを埋めるような探究を組み込む学習。

探究的な学習における課題とＰＢＬ（プロジェクト型学習）の考え方を取り入れることにより期待される効果の例は次のとおりである。

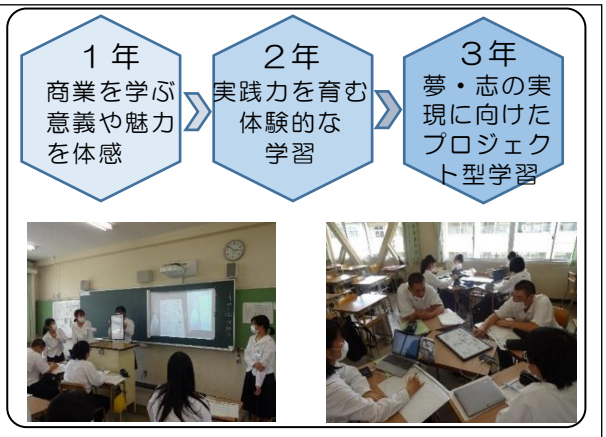
【課題】	【期待される児童生徒の姿】
課題を自ら見付け，設定する等，課題が児童生徒自身のものとなっていない。	実生活・実社会から，児童生徒自身が解決したい「答えのない問い」にチャレンジする。
目的が不明確で情報収集が，パソコンと本の作業的な調べ学習に終わっているな。	プロジェクトの達成に向けて，児童生徒が情報収集の方法を選択し，パソコンや本に加えて，インタビューやフィールドワーク等，様々な情報収集活動を行う。
あらかじめ教師が学んで欲しいことを児童生徒に順に与えてしまっているな。	教師も答えのない問いに対して，児童生徒と一緒に考え，児童生徒の興味・関心や創意工夫によって，探究の過程を繰り返しながら多様なゴールに向かう。
「まとめ・表現」に対する取組に工夫する余地があるな。	校内の発表に加えて，解決策を専門家や企業，行政機関に提案し，評価を受けたり，社会に貢献する取組を行ったりする。
自らの考えや課題を新たに更新し，次の探究につなげるにはどうすればいいかな。	現実の難しさを実感したり，プログラムを遂行した経験や専門家からのフィードバックを受けたりすること等により，新たな課題が生まれ，探究が繰り返される。

これまでの「課題発見・解決学習」の実践の積み上げの上に，ＰＢＬ（プロジェクト型学習）の考え方を参考にしていくことで，児童生徒の探究的な学習がより一層充実していくと考えられる。さらには，児童生徒や学校の実態に合わせ，「異学年集団による実施」「小グループ等での個別の探究課題の設定」等の学習の形態の工夫や「企業等の出前授業（教育プログラム）の利用」等の様々な資源の発掘と活用等，各校がカリキュラム・マネジメントの中で，考え続けることが重要である。

本県では，令和３年度から，探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業として県内 22 の中学校区を指定し，ＰＢＬを参考とした総合的な学習の時間及び生活科の単元開発を進めていく。

【高等学校での事例】

商業に関する学科を設置している県立高等学校のうち単独校の４校では，生徒の主体的な学びを促す教育活動を推進するとともに，社会に開かれた教育課程を踏まえ，社会の変化に柔軟に対応できる生徒の資質･能力を育成することを目指し，プロジェクト型学習の要素を取り入れた学習プログラムの開発に取り組んでいる。



例えば「人はなぜ生きるのか」「これからの世の中はどうなるか」などの「本質的な問い」を掲げ，生徒が，人としての在り方や生き方という広い視野から，自分を取り巻く環境や世の中の変化に目を向け，「商業を学ぶ意義」や「商業を学ぶ喜び」が感じられる学習プログラムとなっている。

（２）キャリア教育の充実

参考：本誌　第３章「キャリア教育」　Ｐ３－１

ア　小・中学校における取組例

各学校おいて，社会人・職業人として必要な基礎的・基本的な資質や能力を身に付けさせるためには，「卒業時点でできるようになってほしいこと」として，「基礎的・汎用的能力」を基に，キャリア教育を通して身に付けさせたい力を具体的に設定することが必要である。

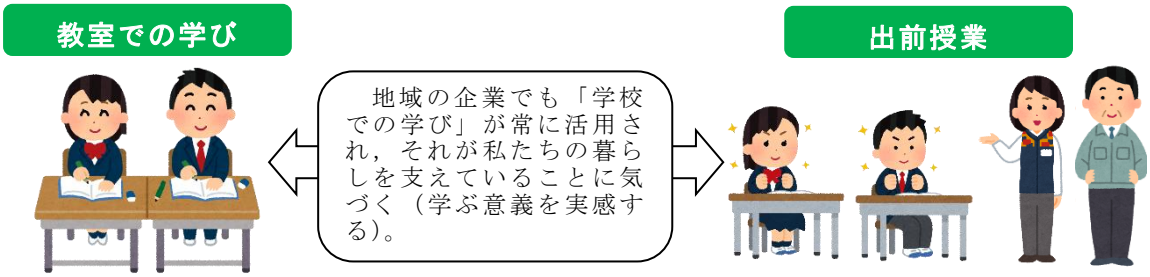
広島県では，「広島県の15　歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」として，「自己を認識する力」，「自分の人生を選択する力」，「表現する力」を設定している。

これらの力の育成に向け，新学習指導要領が示す「社会に開かれた教育課程」の視点を踏まえ，今の自分たちの教科の学びが社会の発展とつながっていることを児童生徒が実感できるよう，キャリア教育において，次に示すような産業界等と連携・協力した取組の充実を図ることが重要である。

①「出前授業」により，今，学校で学ぶ意義を実感！

身近な地域の方に留まらず，Web等を積極的に活用した産業界の外部講師の「出前授業」を，教科等と関連させながら実施する。

例えば，多様な企業が教育ＣＳＲ（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）として無料で提供している教育プログラムを利用し，各教科の適切な単元で，外部講師による授業を実施するといったことが考えられる。



②「職場体験」の受入れ先事業所と育成を目指す資質・能力を共有！

中学校では，現在，ほとんどの学校で５日間の職場体験活動が実施されている。そこに「社会に開かれた教育課程」としての視点を加え，職場体験活動を通じて育成を目指す資質・能力を，受入れ先の事業所と学校とが丁寧に共有しながら，実際の職場体験活動を進める。

次に示す岩手県大船渡町の中学校の事例では，企業等の社会的な使命等が生徒に伝わるよう，企業等にプレゼンテーションのテンプレートを提供し，あらかじめその作成を依頼している。各企業において作成したプレゼンテーションを活用したガイダンスを実施していただくことで，生徒は職場体験を通じて自身に身に付けたい資質・能力を意識しながら体験活動に向かっていく。

【事例】岩手県大船渡町の中学校における取組
受入先の企業等に対し，職場体験の開始時に，その社会的な使命等を生徒に伝えていただくためのプレゼンテーションを依頼（テンプレートを提供）

【受入先企業等へ提供するテンプレートの参考イメージ（一部抜粋）】

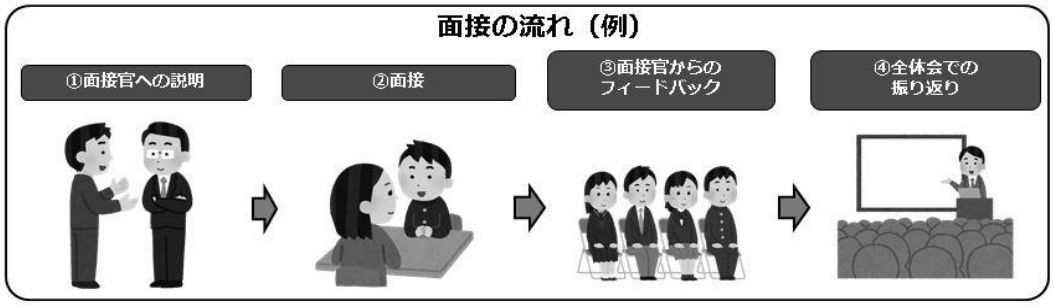
キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム HP　http://www.career-program.ne.jp/smile/ccd.html

③外部人材による「面接体験」で表現する力を発揮！

次に示す横浜市立の中学校（複数校で実施）での事例では，職場体験活動の受入れ先企業の方に面接練習の試験官を依頼し，面接体験を実施している。初対面の大人の前で，これまでの学びを通じて培ってきた自分の考えをしっかりと表現する機会を設けることにより，生徒一人一人が自分自身の生き方についてさらに深く考えることとなる。

【事例】横浜市立の中学校における取組
職場体験活動の受け入先企業の方を面接練習の試験官に活用！

◆学年　　：中学校３年生（例年12月に実施）
◆面接官　：職場体験先の方,地域の企業の方,町内会長など地域の役員の方　等
◆面接形態：個人面接（時間に余裕があれば、集団面接も実施）
◆質問内容：自己PRや長所・短所，学校生活で努力したこと等の学校が作成した一覧から、面接官が選択して２～３問程度実施。



地域の外部人材を活用することで・・・

- **初対面の方に対して自己を表現する，貴重な機会となる。**
- **外の方からのフィードバックを得ることで，生徒の自信につながる。**
- **生徒が，面接官から多様な価値観を学ぶことができる。**
- **教職員も面接官から生徒の状況や学校の取組の評価を得ることができる。**

イ　高等学校における取組

各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を充実させるため，県教育委員会では，令和元年度に文部科学省の「次世代のライフプランニング教育推進事業」の委託を受けた「高校生のためのライフプランニング教育プログラム」の開発を行い，普及に向けて取り組んでいる。

この教育プログラムは，高校生が自己の在り方生き方と実社会とのつながりを意識し，就職のみならず結婚，出産，育児などのライフイベントを踏まえた生活の中で，多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら主体的に意思決定できる能力と態度の育成を図ることを目指すものである。

①「高校生のためのライフプランニング教育プログラム」の概要

＜教育プログラムのねらい＞

設定された人物の立場となり具体的な事例の課題解決に取り組ませる活動によって，ライフプランニングのための方法と考え方を知り，自分自身のライフプランニングの意欲を高める。

＜教育プログラムで育成を目指す資質・能力＞

・　学びに向かう力，人間性等

全ての人が多様な生き方を実現できる社会を作るために主体的・協働的に取り組もうとする態度を養う。

・　思考力・判断力・表現力等

ライフプランニングのために必要な考え方や手立てについて理解し，情報を活用し意思決定する。

・　知識及び技能

多様な生き方や価値観を認め合い，誰もが活躍する社会を共に作ることの重要性を理解する。

＜授業構成＞

②開発モデル校の実施における検証報告

＜開発モデル校の概要＞

	広島観音	安古市	安芸南	総合技術
学科	総合学科	普通科	普通科	専門学科
教科等	産業社会と人間	家庭科	総合的な探究の時間	家庭科
学年 クラス数	第１学年 ６クラス	第１学年 ８クラス	第１学年 ５クラス	第１学年 ６クラス

＜実施報告＞

生徒アンケートの結果

・　93％の生徒が，本プログラムを実施する際に，課題を解決しようとする主体性や情報活用能力を発揮することができたと回答した。

・　自身のライフプランについて，考えていこうと思った生徒は，52.3％から96.3％（44ポイント向上）になった。

・　自身のライフプランニングを実現させるための仕組みや制度について調べてみたいと思った生徒は，19.3％から86.8％（67.5ポイント向上）になった。

教員アンケートの結果

・　90％以上の教員が生徒は興味をもって取り組んでいたと感じ，ねらいを達成するために発達段階に応じた有効な内容と教材であったと評価した。

・　79％の教員が，本プログラムが男女の固定的役割分担意識の解消に必要な視点や他者の考えや個性を受け入れる力の取得に寄与していたと回答した。

（３）学科等の特色を生かしたカリキュラム開発

令和４年度から実施される高等学校学習指導要領の趣旨及び新時代に対応した高等学校の在り方を踏まえ，生徒の資質・能力の育成に向けて学科等の特色を生かしたカリキュラム開発を行い，その成果の県内への普及を目指す。

学科	研究概要（例）
普通科	「総合的な探究の時間」,「特別活動」等を核として，各教科・科目等で習得した知識・技能等を活用し，現代社会の課題等の解決に取り組むカリキュラムの開発
専門学科	「課題研究」等を核として，専門教科・科目等で習得した知識・技能等を活用し，社会の変化やニーズを踏まえ，社会的課題等の解決に取り組むカリキュラムの開発
総合学科	「産業社会と人間」,「総合的な探究の時間」等を核として，多様な選択教科・科目等で習得した知識・技能等を活用し，自己の生き方に関する課題等の解決に取り組むカリキュラムの開発

※令和４年度以降は，各学科を越えたコンソーシアムを結成し，カリキュラム開発を行う予定。

（４）高等学校におけるルーブリックを活用した学習評価

ア　「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校の取組

本県では，平成 30 年度から令和２年度にかけて，「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校において，生徒の資質・能力を評価するためのルーブリックの開発等に取り組んでいる。

各研究開発校においては，教育目標に基づき，生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確化し，具体的な生徒の姿を見とるためのルーブリック（学校全体で育成する資質・能力のルーブリックを「マスタールーブリック」と呼ぶ）を作成し，活用していくことを通して，指導の評価・改善につなげていくことに取り組んでいる。

参考：「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る研究開発校について　広島県教育委員会
https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/juten-h30koukoukadaihakken.html

【ルーブリック作成及び活用の手順の一例】

① 生徒の現状を踏まえ，学校全体で育成する資質・能力を設定する。

② マスタールーブリックを作成するに当たっては，育成する資質・能力について，卒業時に到達する基準を決めて段階を設定する。

③ ②で作成したマスタールーブリックをもとに，各教科や総合的な探究の時間，特別活動等において，単元や１時間ごとの授業のルーブリックを作成する。

④ ルーブリックを活用して生徒に学習の到達度を確認させ，次の学習への見通しをもたせる。

【御調高等学校の事例】

（マスタールーブリックの開発）

開発の流れ	概要
生徒の現状把握	○　アンケートや面談等を基に，生徒の現状を把握する。
資質・能力の設定	○　ＥＳＤの７つの資質・能力を参考に，学校全体で育成する資質・能力を設定する。資質・能力の要素の定義付けについては，生徒会役員の意見も取り入れて作成する。
評価基準の作成	○　７つの資質・能力について，それぞれ４段階の記述語を作成する。 ○　卒業時に全員が到達する目標を４段階のうちのレベル２に設定する。

（マスタールーブリックの活用）

活用場面	概要
総合的な探究の時間	○　マスタールーブリックを基に，単元や１時間ごとの授業のルーブリックを作成する。 ○　単元や１時間ごとの授業のルーブリックを授業の導入時に提示し，目標を生徒と共有する。 ○　単元や１時間ごとの授業のルーブリックを活用して，教師が評価を行ったり，生徒が自己評価を行ったりする。また，教師と生徒が面談を行い，学習の到達度を確認し，今後の学習の見通しをもたせる。
特別活動	○　学校行事と資質・能力の対応表を作成する。 ○　マスタールーブリックを基に，学校行事で生徒に自らの行動目標を考えさせる。 ○　学校行事終了時に，マスタールーブリックで示した７つの資質・能力のうち，生徒が自ら身に付いたと実感している資質・能力を選び，その理由を記述させることで，学習意欲の向上を図る。

（作成したマスタールーブリック）

資質・能力の要素		レベル１	レベル２	レベル３	レベル４
批判的に考える力		他者の意見や与えられた情報を，分析・検討する方法を理解している。	他者の意見や与えられた情報を，自分の考えと照らし合わせ，分析・検討することができる。	他者の意見や与えられた情報について，信頼性や正確性を分析・検討することができる。	他者の意見や与えられた情報について，信頼性や正確性を分析・検討したことをもとに発表したり行動したりすることができる。
未来像を予測して計画を立てる力		自分の目標を明確に持ち，実現に向けて計画を立てて取り組むことができる。	自分の将来のあるべき姿を考え，自分の行動を計画できる。	自らの経験や現状をふまえて自分の将来あるべき姿を考え，実現に向けて計画を立てることができる。	自らの経験や現状をふまえ，社会にどう関わっていくかを考え，自分や社会の将来あるべき姿の実現に向けて計画を立てることができる。
多面的・総合的に考える力		１つのことに対して，他の人の意見をふまえて思考することができる。	１つのことに対して，他の人の意見を受け入れ，２つの視点で考えて判断できる。	１つのことに対して，複数の視点から思考し，現状と照らし合わせて総合的に判断することができる。	１つのことに対して，複数の視点から思考し，現状や他者の意見をふまえて総合的に判断することができる。
コミュニケーション力	**話す**	自分の気持ちや考えを他者に伝えることができる。	自分の気持ちや考えを他者にわかりやすく伝えようとしている。	自分の気持ちや考えを，目的や場に応じた表現を用いて他者にわかりやすく伝えることができる。	自分の気持ちや考えを，目的や場に応じた表現で適切かつ効果的に用いてわかりやすく伝えることができる。
	聞く	相手の気持ちや考えを理解することができる。	相手の気持ちや考えをメモを取りながら聞き，理解することができる。	相手の気持ちや考えを聞いてその場で理解することができる。	相手の気持ちや考えを聞いてその場で理解し，質問や反論等を返すことができる。
他者と協力する態度		与えられた課題に対して協力して取り組むことができる。	相手の立場で考えを尊重するとともに，協力してものごとに取り組もうとしている。	相手の立場で考えを尊重するとともに，課題を解決するために協働して取り組むことができる。	相手の立場で考えを尊重するとともに，課題の解決に向けて自他の役割を明確にしながら取り組むことができる。
つながりを尊重する態度		自分と周囲の人や社会，地域のつながりに関心を持っている。	自分の行動が，周囲の人や社会，地域にどのような影響を及ぼすのかを考えて行動できる。	自分と周囲の人や社会，地域とのつながりを自覚するとともに，自分の行動が及ぼす影響を理解している。	自分と周囲の人や社会，地域とのつながりを自覚し尊重するとともに，自分の行動が及ぼす影響を理解し，社会や地域に貢献することができる。
進んで参加する態度		集団の中で与えられた役割を理解している。	集団の中で与えられた役割を理解し，受け入れ，ものごとに自ら進んで行動しようとしている。	集団や社会における役割を理解し，自分の発言や行動に責任を持って行動することができる。	集団や社会における役割を理解し，自分の発言や行動に責任をもち，やるべきことを自ら見つけて主体的に行動できる。